

認知症患者における検査の課題

- RSSTは、随意的な嚥下運動を測定するため、認知機能障害がある場合、繰り返し唾液を飲むことを促す必要があったり、説明を理解できない場合がある。
- 咳嗽反射を利用した咳テストで嚥下機能評価ができることが、認知症患者にとって有益であると考えられる。